

消化器外科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	胆道良性疾患に対する胆嚢摘出症例における膵・胆管合流異常および膵・胆管高位合流の有病率と発癌リスクについての後方視的観察研究
研究機関の長（試料・情報の管理責任者）	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	消化器外科 助教 加藤翔子
研究の対象となる方	2013 年 1 月から 2024 年 3 月までに胆嚢摘出術を施行した患者さん
研究期間	研究実施承認日 ～ 2025 年 12 月 31 日
研究目的及び利用方法	〔研究目的〕 膵・胆管合流異常は、膵管と胆管が十二指腸壁外で合流する形成異常であり、膵液と胆汁の相互逆流により胆道癌の原因となります。膵・胆管合流異常と合流異常と正常の中間型である膵・胆管高位合流は認知度の低い疾患であり、胆道良性疾患で胆嚢摘出する際に認知されていない可能性があります。適切なフォローがされない場合、術後に胆道癌の発症リスクがあり、長期予後に影響します。そこで本研究では、過去の画像検査から胆管・膵管の形態を評価し、胆嚢摘出後の胆道癌発生率にどのように影響するかを評価します。 〔利用方法〕 胆道良性疾患に対する胆嚢摘出術を施行した患者さんの症状経過、検査所見、手術所見等の情報を収集します。収集したデータは個人が特定できない状態にした上で、発症年齢ごとの病態につき検討・解析します。研究期間中は消化器外科医局でデータを厳重に保管し、研究終了後 5 年間保管した後に廃棄します。この研究に関する資料を入手・閲覧したい場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。 〔外部への試料・情報の提供〕 非該当 〔外部への提供開始日〕 非該当
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	試料：非該当 情報：電子カルテより年齢、性別、症状経過、画像所見、手術所見、病理所見などを収集

提供する試料・情報 を用いる学外の研究 責任者	非該当
試料・情報を利用す る学外の者	非該当
試料・情報の利用又 は提供を希望しない 場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2025 年 11 月 30 日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報 の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 消化器外科 担当者：助教 加藤翔子 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311（内線 22121）